

校長室だより

～なかまとともにのびよう～



令和6年1月9日号 校長 高橋 義浩

新年 あけまして おめでとうございます



まず、はじめに、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」で被災された皆様方に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一人でも多くの方が無事救出されますことを願っております。

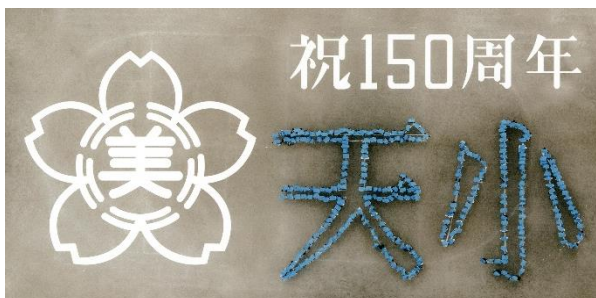
あらためまして、新年あけましておめでとうございます。旧年中は、本校の教育活動に対し、ご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。どうぞ、本年もよろしくお願いいたします。

さて、今年は「辰年（甲辰 きのえ・たつ）」です。辰は十二支の中では唯一の架空の生き物、「龍（竜）」を意味しています。水や海の神としてまつられてきた龍は、「竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴する」とも言われているそうです。わたしたちも「龍」にあやかり、大きく飛躍する年としたいと思います。天美小学校の子どもたちが、さらに大きく飛躍できるよう、職員一同力を尽くしてまいりますので、保護者の皆様には、どうぞ本年も変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



天美小学校は 創立150周年を迎えました

天美小学校は、2023年（令和5年）6月9日に、創立150周年を迎えました。



災害に備えて、日頃からできることを

冒頭にも書きましたが、1月1日16時10分ごろ、石川県能登半島沖を震源とする、震度7の強烈な地震が発生しました。（1月4日時点）多くの方が被災され、懸命な救助活動が続く中、本当に一人でも多くの方が無事救助されますことを願って止みません。



近畿地方でも、今から29年前（1995年・平成7年）1月17日に淡路島北部を震源とする、「阪神・淡路大震災」が発生しました。震災によって、多くの尊い人命が失われ、甚大な被害がもたらされました。当時、わたし（校長）は、新採3年目の教員として、天美小学校の4年生を担当していました。忘れもしない1月17日の朝、最初の揺れを感じた次の瞬間、「ドカン」という音とともに下から突き上げるよう激しい揺れに襲われました。それまで幾度となく地震を経験していましたが、後



にも先にも、「縦」に揺さぶられたのは、この阪神・淡路大震災だけでした。あの時の恐ろしさは、今でも忘れることができません。後に、その時の様子を子どもたちに教えてもらいました。激しい揺れの中、多くの家で、お父さんやお母さんたちが子どもたちに覆いかぶさり、地震から自分たち（子どもたち）を守ってくれたそうです。

現在の科学では、地震を完全に予知し、災害を「0」に抑えることは不可能だと言われています。そこで、最近では、「防災」ではなく「減災」という考え方が注目されています。「減災」とは、「災害が起きること、被災することを前提に、その被害を最小限におさえよう」とする考え方です。「減災」は、個人（家族）で取り組むことができ、その取組には、一例として以下のようなものがあるそうです。

1. 自助・共助

■「自分の身を守るためにできること」「家族でできること」「近隣住民とできること」を考えておく

2. 地域の危険を知る（「防災マップ」など）

■自分の住んでいる地域が、災害の時にはどのような被害にあう可能性があるのかを知っておく

3. 地震に強い家をつくる

■自分の家がどのくらいの地震に耐えられるのかを知っておく（心配な場合は耐震診断を受け、その結果によって耐震補強を行う）

4. 家具を固定する ■背の高い家具や重い家具などを壁や床に固定しておく

5. 日頃から備える ■日頃から非常用持ち出し袋の準備や備蓄をしておく

6. 家族で防災会議 ■事前に災害時の連絡先や連絡方法、合流場所などを家族の中で共有しておく

7. 地域とのつながり

■日頃から近隣の人たちとコミュニケーションをとっておく（阪神・淡路大震災の教訓からも、あいさつなどの声掛けが、いざというときのたすけあいにつながる）

（LIXILのホームページより）